

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
	安全・衛生の確保	登下館時の交通安全の取組	学校から児童館に登館する道のりでも交通ルールを守って安全に帰れなかったり、寄り道をしたりする児童がいるので、保護者の方と一緒に歩いて練習をしてもらうように面談時にお願いをした。
	健康の管理・情緒の安定	手洗い消毒の励行（石鹸の使用）	児童館から帰宅する5時帰りの帰り方で、公道を右往左往したり走ったりして、安全に帰れていない児童がいるため、下京警察署に依頼して交通安全教室を行い、5時帰りに同行してもらい、下館指導をしてもらった。指導時だけはしっかりと歩くが後日につながらない。
	基本的生活習慣の確立	あいさつ運動・物の片づけ	また保護者にも現状を理解してもらうために下館時の見守り隊に協力をしてもらった。見守り隊の活動に多くの保護者が参加した。
		グループ活動	長期休暇中はせんだんホールと4階会議室をお借りして、クラス毎に児童館と4階に分かれて過ごした、昼食時はクラス毎に3年以上が司会をしたり、昼食のテーブルの準備をしてくれた。せんだんホールでのみんなあそびでは、高学年がみんなあそびをやりたい子どもをまとめて話し合いをして、みんながやりたいことを時間を決めてあそびを楽しんだ。
		物の管理・取扱いについて	自分の荷物をロッカーにしまうことができない児童が多い。他の児童の荷物と一緒に、物の紛失や忘れものが多かった。各部屋の片づけの状況を「トリプルエイジ」と名付けたメンバーがチェック表で確認をしてくれた。毎日5時前の集合時に報告をしてくれた。しかし報告をただ聞くだけでなくしっかりと片付ける啓発にはつながっていない状況である。
		地域の公園の利用について	地域の公園であそぶ時に、地域の乳幼児親子から大人までが気持ちよく集えることを考えられるように話し合いを重ねた。あそびで場所を区切ったり、ボールの使用で公園の木々や公共の倉庫や棚を傷つけることがないように今後も子ども達に考える機会を持ちたい。
		社会生活技術の獲得	時間の使い方の選択・決定と後片づけの励行
		多彩な子どもたちとの遊びを通じて関わり	放課後の時間の使い方を自ら決め、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。1日の流れをホワイトボードに示して、視覚的にわかりやすくした。小さなホワイトボードも多用して、次の予定等を細かく示して、子ども達が次の行動への見通しを持ちやすくした。しかし片付けの時間を自分でわかって次の活動に切り替えられる児童はまだ少ない。10分前に声をかけるなどして習慣化をしたい。
		放課後お手伝い隊	仲良しの子が学童を欠席すると、遊ぶ相手が居ないと大人のところにやってくる子どもたちがいる。あそびの中で新しい友達関係を育んでいく時間と場所、大人がうまくサポートできるようにする。そのために、子どもたちの状況の分析・働きかけの方針を決めて、運営をしていく。
		館外活動	夕方時間を決めて子ども達がゴミ集め、集積場所に持っていくお手伝いをしてくれた。自分達が児童館のために役に立つことをすることで満足感と自信につながっている。
			3年生が夏休みに観劇に行った。夏の暑さが危険な状況となり、タクシーの利用となり今度の対策が必要となった。久しぶりに大型バス3台で滋賀県に遠足に出かけて、大自然の中で思い切りあそぶことができた。大勢の仲間とあそぶ体験は大切なので来年度も実施したい。
	生活体験の拡大	併設老人ホームやデイサービスとのふれあい交流	にじいろマルシェで特養の方やデイサービスの利用者さん達とふれあい交流をした。デイサービスの夏まつりにも参加させてもらった。
	社会性の養成	らんらんランチ	異世代の交流があることで、存在を認められる機会になると思う。できる形で交流の機会をつくっていただければいい。
		他館との交流事業	食の生活体験を増やすために、土曜日にお昼ごはんの買い物を実施した。普段の生活で経験ができない児童のためにこれからも継続していきたい。子ども達で相談して店を決めたが、当日この行事を忘れていた児童がいて、個別の声掛けの必要性を感じた。
		にじいろマルシェスペシャル	下京区の4館でオニム交流会が実施できた。1年生から5年生までの児童が一緒にお出かけすることができ、他館の児童とも交流することができた。このような経験が子ども達の成長に大切であることが実感できた。
	自立の促進と自主性の尊重	遊びの選択・決定と後片づけの励行生活スケジュール	成徳学舎にて実施した。地域の色々な団体が参加してもらい、多世代で交流できたことで、自分のやりたいことを自分で選び、あそびを満喫して、自分のできる役割を果たすことができた。
		パースデーススペシャルおやつ券	自らが決め、遊び、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。大まかなスケジュールを表示して、子どもたちに考えるきっかけを作った。土曜日など利用者が少人数の時は、どの部屋で遊ぶかなど、「自分たちで決める」という時間をつくった。
		グループ会議	誕生日のお祝いにいつものおやつにプラスして、もうひとつ自分の欲しいおやつをプレゼントした。スペシャルおやつ券をもらえることで、みんな自分の誕生日の月になることを楽しみにしてくれていた。
		6年生企画	学年で分けたグループで長期休み等はグループワークを実施した。子どもたちの中で目標が生まれたり、ルールをつくりその中で責任を考える機会になった。メンバーを固定せず、少人数でグループを作り、ミーティング形式でグループワークを実施していきたい。ルールをつくり、自分たちで守る、ルールを変更するなど展開を見守るようにした。
			自分達の”やりたい”を実現していくために会議を重ねて、企画・準備を頑張った。各学年、仲間意識が強まり、絆が強まる良い機会となった。6年生は休会者も交えてお出かけを企画した。中高生になってからの児童館利用につなげるための機会となった。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換	学童クラブだよりの発刊（毎月） 学童クラブ保護者懇談会の実施	子どもたちの様子を伝えることに重点を置き、写真を多用して作成。行事の報告だけでなく、日ごろの様子を写真に収め、紙面に並べて発行した。（うえぶさくらで配信） 子どもたちの様子を伝えるとともに保護者同士の交流を図った。 参加者が少ないので、楽しい企画をしていく必要がある。
		うえぶさくらのメッセージによる情報発信	学童からの連絡が確実に保護者に伝わり、書類などの提出がスムーズになった。
	子育ての仲間づくり	保護者懇談会 クリーンサタデーの実施	親同士が顔を合わせる機会が少なくなっているため、保護者の交流の場を設定して、保護者同士の情報交換ができるようにした。 た。
	子育てを支えるネットワーク形成	子ども支援センター・学校等とのケース会議や 日常の相談	個別ケースについて地域の諸機関と連携、相談。小学校や保育園との情報共有もしっかりと行った。